



ハーブ通信

2008年

7月号

(第26号)

<http://www.hurp.info>

HuRP3周年記念イベント

『人権ツアーに行こう』

—「白鳥事件」、「軍隊のない国家」を歩く—

2008年7月27日

わたしたち人権・平和国際情報センター“HuRP”は、今年で設立から3周年をむかえ、ここに記念イベントを開くことにいたしました。今年のテーマは『人権ツアーに行こう』。人権を尊重する司法のあり方、そして人権の前提となる平和の構築とは何かを考えるイベントにしようと思い、会員の皆さんで協力し合って作り上げました。



梅雨が明けた後も突然の雨が降る毎日ですが、当日は天気にも恵まれ、会場の南大塚ラパスホールは60人を超える方々が参加してくださいました。

第一部 『白鳥事件・白鳥決定』

第一部は HuRP が制作したオリジナル映像『白鳥事件・白鳥決定』（約30分）を上映しました。映像は次のような内容でした。

— 1952年、北海道札幌で白鳥警部が殺害され

る事件が発生し、村上国治さんが容疑者として逮捕・起訴され、一・二審を経て最高裁で有罪が確定しました。村上さんの逮捕・起訴には多くの疑問が集まり、村上さんに対する過酷で違法な取調べへの批判も高まり、村上さんの無罪を勝ち取るための大きな運動がとりくまれました。村上さんは最高裁の有罪判決に対して再審請求を行いました。認められませんでした。しかし、その際に裁判所は「疑わしきは被告人の利益に」という刑事裁判の鉄則は再審請求の審理にも適用されるという考え方を明確にしました。1975年のこの決定が白鳥決定と言われるものです。この白鳥決定を受け、以降免田事件、財田川事件、松山事件、島田事件において死刑の確定囚に対する再審が実現し、死刑囚が死刑台から生還することになりました。しかし、日本の刑事司法にはいまなお多くの問題があります。今日でも鹿児島選挙違反事件=志布志事件のように、無実の人たちが逮捕・起訴されることがあります。来年からは刑事重大事件の裁判に国民が裁判員として関与することもふまえ、刑事事件・刑事裁判について学び広げ、無実の人が罰せられることのないようにしていく必要があります。—

映像は、運動をしていた方へのインタビューや当

時の運動の一環として作られた貴重な映像、村井敏邦教授（龍谷大）のお話など、たくさんの調査・取材に基づいて編集されています。

イベント終了後のアンケートでは、「映像の中で、村上さんの"証言"がとても重く、貴重なものだと感じた。不当に逮捕された人たちの証言映像があれば、もっと聞いてみたい」「人権と憲法のつながりを刑事裁判から考えるのは、重要なことだと思う。あんなに多くのえん罪が発生しているのだから。今回の白鳥事件を通じて痛感した」「事件の経緯を知らなかったで、今回は勉強になりました。当時の社会背景も併せて説明していただけた点が、わかりやすかったです」など、えん罪の過去と現在を結びつけて、これからどうしたらよいかを考える機会になったようでした。

第二部 『軍隊のない国』を歩く

第二部ではまず、前田朗さん（東京造形大学教授）に『軍隊のない国家』をあるく」と題して、たくさんのスライドを映し、現地で購入してきたという音楽をはさみながら、お話をいただきました。

前田さんは、ご自身の書かれた本（『軍隊のない国家』〔日本評論社、2008年〕）に書ききれなかったエピソードや、感じたことなども、ユーモアを交えて紹介してくださいました。そして「戦争をあおらずに、人権を中心とした外交を」「日本は9条を活用すべき」と、各国を訪問して感じたこと話されました。特に、「軍隊を持たなければ、若者が人殺しの訓練をしなくて済む」という言葉には、平和を求めることの大切さがここに詰まっていると感じました。

アンケートでは、「前田先生のお話はとても面白かった。このような角度から旅行してみるのも良いなあとと思った」「軍隊を持たないってことは、"勝利"は得られないけれど、"信頼"を得るんだって再認識



した」「日本も9条を活用した外交戦略を持たねばと、改めて勉強になりました」など、軍隊のない国家を見て、あらためて日本を見つめ直しているようでした。

『軍隊のない国』を訪問

今回のイベントでは、会員の皆さんで軍隊のない国を『訪問』しました。

実は、訪問したのは日本にある大使館です。インタビューに応じてくださった各国の大使の方々は、各国の歴史と国民性が現在の軍隊のない国を形作っていることを話してくださいました。各国のインタビューの様子はパネルにして当日展示しました。

また、イベント当日にはインタビューに応じてくださった国の一つ、コスタリカの大使も参加してくださいさり、平和外交や平和教育の重要性をお話してくださいました。また、同じく軍隊を持たない国である、アイスランドとサンマリノの大使がビデオメッセージを寄せてくださいました。パナマ大使館はフェアトレードによるパナマコーヒーを提供してくださいました。





各国の取材をまとめたパネルを展示



自衛隊に関するデータなど

していることに驚きました。

たくさんの調査と、様々な人に出会い、お話を聞いたことは、わたしたちや来てくださった方、この文を読んでくださっている方に人権・平和について学び考えることの難しさや楽しさを共有できたことと思います。わたしたち HuRP は、引き続き多くの方々と共に人権・平和について学び考えていきます。



パナマのコーヒー（たいへんおいしかったです）

軍隊を持たないと宣言した国家 日本

『軍隊を持たない』と宣言している日本には、どのくらいの装備が配備されているのでしょうか。それらをデータをまとめたものをパネルにしました。数値や写真で見ると、あらためてたいへん「充実」



『軍隊のない国々』

青年劇場の俳優たちによる朗読「平和へのメッセージ」

2008年8月2日



「微力ではあっても無力ではない」今年も、平和をテーマにした朗読劇が新宿の青年劇場スタジオ YUI でひ

らかれました。今年は舞台のレイアウトを変え、観客と距離をさらに近くしての公演となりました。昨年と同じく、たくさんの方が見に来ていました。

青年劇場が自主的に取り組んでいるこの催しも、6回目を迎え、今回は8作品が読みあげられました。その中から何点かご紹介します。

「折れた弓」

「最強の弓」を手に入れたお金持ちがその弓を使い大王にまでのし上がります。しかし、弓は最強だが外見がいかにも地味だ。大王は弓に装飾をほどこさせますが、弓を引こうとした時、その装飾が徒となって弓は折れ、落ちた矢は大王自らの命を奪いました。いろいろと考えをめぐらせられる作品でした。

「お父さんいってらっしゃーい」

理想郷とうたわれた旧満州（中国東北部）へ移住した家族は、第二次大戦の敗戦により暴動に巻き込まれます。軍部は早々に撤退し、残された人々は命がけで引き揚げました。汽車の中で力尽きて亡くなった子どもを車中から投げ捨てなければならぬ状況は、異常です。戦争で人生を狂わされた人たちの物語でした。

「原爆の詩」

『ドッガーン』忘れられない8月6日」短い詩



の中で原爆の恐ろしさを訴えました。

実は、この原稿は8月6日、原爆投下の時間（8時15分）に書いています（ちょうど「原爆の子の像」が映し出されています）。亡くなった方々や平均年齢75歳をこえる被爆者の人々の気持ちを考えながら、今年も黙祷しました。

(T本)

カラダに平和を 自炊のススメ

26 ピザトースト

第23回（ピザもどき）で「次回登場」と書いておきながら2回も空いてしまいました。

このメニューは、実家でよく食べていました。あとは焼くだけにして冷蔵庫に保存しておく、忙しい朝でも食べられますよ。

材料：食パン、タマネギ、ピーマン、ハム、チーズ、コーン

手順：

1 ピーマンは種を取って輪切り、タマネギは薄く切って水にさらし、固く絞る。

2 食パンにケチャップをのばしてかけて、タマネギ、ピーマン、ハム、チーズ、コーンをのせる。

3 トースターで3～5分焼いてできあがり。

具材をハム→サラミに、チーズを高価なものにしたりと、いろいろバリエーションが楽しめますよ。でも、ピーマンとタマネギは外せません！



イベントには、たくさんの方にお越しいただきありがとうございました！イベントに来られなかった方で、当日の資料がほしい方がおられましたら、ぜひ下記までご一報ください。無料で資料をお送りいたします。これからも HuRP をよろしく願いいたします！（写真は会場の最寄り駅・大塚駅前です）

(T本)



特定非営利活動法人「人権・平和国際情報センター」(HuRP: ハーフ)

Human Rights and Peace Information Center JAPAN (HuRP)

〒101-0065 東京都千代田区西神田2-7-6 川合ビル41号室 TEL&FAX 03-3234-3231

e-mail hurp@hurp.info HP <http://www.hurp.info/>